

## ドーバーの白い崖

松山久秋

ドーバー海峡の崖が白いことはよく知られていますが、海峡の大陸側にも白い崖があります。イギリス側の白い崖が数十キロにおよぶのに比べると、フランス側は規模が小さいですが、奇岩もあって壮観です。崖が白いのは白亜紀の石灰岩で出来ているからだそうです。崖の高さは100～150メートルほど。フランス側の白い崖は、港町ルアーブルから遠くないエトルタ村にあって、崖の上にゴルフ場があります。6月中旬、友人とこのゴルフ場を訪れました。ドーバーを渡ってくる風は冷たく、気温は10度ほど。時折雨が降る中でのゴルフとなりました。

ドーバー海峡（仏ではカレー海峡という）の断崖絶壁の上はほとんど木も生えず、吹きさらしです。プレイした日は変わりやすい天候で、風は特に強いという程ではなかったけれど、雨が降ったり、時に止んで薄日がのぞいたり、全英オープンを思わせるような天気でした。風に吹かれ、雨に打たれて、登り坂では結構重くなる手引きカート（仏ではシャリオという）を前傾しながら引く。そんな難行苦行をして楽しいのか、と聞かれますが、それでも楽しいのです。与えられた苦難に耐えているような気持ちになります。ナイスショットと思ったボールが風に吹かれてラフに消え、ロストになることがありました。逆に崖の方に飛んで行ったボールが、風に押されてフェアウェーに戻ってくることもあります。だから、全部合わせて楽しいのです。ラウンドを終え、クラブハウスのレストランから、ねずみ色のドーバーの海を眺めていたら、ひどいスコアにもかかわらず、何か充実感が湧いてきました。そこで食べたステク・オ・ポワール(ペッパー・ステーキ)は最高でした。



(右の奇岩は“象の鼻”、崖の上にゴルフ場)

ノルマンディーでのゴルフの拠点にしたのはドーヴィル。パリから車で2時間半ほどの海辺の町で、カジノがあります。若い方はご存じないでしょうが、映画「男と女」の舞台になった町です。映画の中では、ドーヴィルの海岸は雨や霧で暗かったのを覚えています。自分が行った時は快晴で人出が多く、映画のイメージとは異なりました。若い人は知らないと書きましたが、帰りのエアフランスの機内で中年のアテンダントと話をしたら、「男と女」という映画があることは知っているが、見たことはないとのことでした。

今回のゴルフ旅行では、ノルマンディー上陸作戦で米英軍が上陸した海岸にあるゴルフ場オマハ・ビーチ、100年の歴史を誇るゴルフ・ドゥ・フォンテーヌブロー、今年9月にライダーカップ(米チーム・欧州チーム対抗戦)が開かれるゴルフ・ナショナル等々でプレイしましたが、最も印象に残ったのはゴルフ・ドゥ・サンジェルマンでした。パリ近郊のサンジェルマン・アン・レーにある林間コースです。ゴルフ作家の夏坂健によると、ミッテラン大統領がよく来ていたコースとのこと。ホール毎の景観が見事で、木立に阻まれてよく見えない隣のホールではミッテランがプレイしているような、そんな気がしました。ミッテランが亡くなって20年以上経ちますが、社会党のシンボルの赤いバ

ラが似合う、カッコ良い大統領でした。大統領就任後の記者会見で、愛人と隠し子がいることを記者に聞かれて、「エ・アロール？」(それで、どうかしましたか?)と切り返したという話を思い出していました。

サンジェルマンは他の名門コース同様に、乗用カートは使えないウォーキング・コースでしたが、スクーピーという一人乗りのカートがありました。介護用の電動シニアカートをキャデューバッグが積めるように改装したような便利な乗り物でした。



(スクーピー。後ろはクラブハウス)

最後に、短い滞在でしたが、目一杯楽しませてくれたフランスに感謝の気持ちを込めて、ヴィーヴ・ラ・フランス!! (大統領演説の締め決め文句のマネ、笑)。だから、帰国後だいぶ経ってから送られてきたスピード違反のキップ2枚は許してもらえないでしょうか。